

## ◆九州国立博物館と地域の振興について

九州国立博物館は歴史系博物館として設立されたもので、日本文化の形成をアジア史的観点から捉える博物館として、九州の歴史、文化を国内外に発信し、文化交流を促進する拠点として、大きな役割を果たしている。福岡県民にとっては、九博が広く人々に親しまれ、地域振興のかなめとして、今後さらに発展していくことが願いであり、そのための方策について質問を行った。

Q	<p>九博は、オープンから十一年目を迎え、年間来館者数は平均で百万人以上を維持しているが、九十万人前後であった年もあり、来館者数の減少が危惧される。人気のある特別展には多くの方が来館されたが、いつまでもヒットを打ち続けることは難しいのではないかと。来館者数の推移と、年間来館者数の目標、来館者を維持あるいはふやすための取り組みはどうか。</p>
A	<p><b>小川知事</b> 全体的には開館当初と比べて少し減少しているが、ここ数年の経緯から、百万人というのが一年間の一つの目安と考えている。来館者を増加させていくために、九州国立博物館と連携して、魅力ある特別展や、また常設展を企画など、さまざまなメディア媒体を活用して、広報を行っていく。</p>
Q	<p>子供たちが日本や九州の歴史や文化、日本民族の生き立ちを学ぶ機会は大変貴重であり、歴史系博物館として開設された九博が活用されることが望まれる。福岡県内の小中学校で、平成27年度に九博を訪れたのは、百三十五校で、県内全学校数の約一二％、生徒数は約一万人で、全生徒数の二％強、特別展に訪れた小中学生は、全入館者の一から二％で推移をしている。</p> <p>小中学校のときに、学校行事の一環として一度は九博を訪れ、勉強するような仕組みづくりができないか。九博を対象としたスクール・ミュージアム事業についても検討すべきと考えるがどうか。福岡県外の小中学校の修学旅行先に九博を組み入れるような積極的な働きかけはできないか。</p>
A	<p><b>小川知事</b> 修学旅行の誘致については、小中学生にもっと博物館に来てもらえるよう、博物館でしか学べない独特の教育プログラムの開発、また展示の工夫を行う。社会科見学、また総合学習の内容としてふさわしいものになるよう、さらなる工夫を重ねていく。また、九州各県の小中学校の修学旅行の行程に、この博物館を組み入れてもらうために、博物館の教育プログラムなどを、旅行業協会を通じて各旅行代理店に広報を行うとともに、九州・沖縄文化力推進会議、九州地方知事会などの機会を利用して働きかけを行っていく。県内の小中学校に対しても、教育委員会と連携をしながら、社会科見学、また総合学習の一環として組み込んでもらえるよう、校長会、歴史を担当する教員の研修会、また市町村の教育長会など、これまで以上にさまざまな機会というものを活用して、その広報を行っていく。</p> <p><b>城戸教育長</b> 県教育委員会としては、九州国立博物館の子供向けの紹介冊子や企画展示の案内を市町村や小中学校に周知するとともに、今後、学校教育における活用上の課題や要望を九州国立博物館に伝えるなど、連携を図っていく。スクール・ミュージアム事業は、九州国立博物館の意向を踏まえつつ、事業の活用を検討していく。</p>
Q	<p>外国人の来館者数の現状、外国人来館者をふやす必要性に対する知事の認識、外国人観光客に来館を促す方策について知事の見解を聞く。</p>
A	<p><b>小川知事</b> 外国人の来館者は、年間三万五千人程度。県は国内を初め中国、台湾などの旅行代理店やクルーズ船会社などに対して営業活動を行ってきた。今後は、外国人ブロッガーによる情報の発信、県内で開催をされる国際会議におけるエクスカージョン、それに取り入れてもらうための働きかけ、また交通機関の乗車券とセットになった割引制度など、新たなサービスの導入についても関係者の方と協議しながら検討を進めていく。</p>